



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## 消費者教育におけるキャッシュレス活用の学び

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石津,みどり メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/159390">http://hdl.handle.net/2309/159390</a>

# 消費者教育におけるキャッシュレス活用の学び

東京学芸大学附属小金井中学校 石 津 みどり

## 目 次

1. はじめに .....	116
2. 授業に関して .....	116
2. 1. 授業の目標 .....	116
2. 2. 実践の意図 .....	116
2. 3. 授業展開の概要 .....	116
2. 4. 授業の実際 .....	117
2. 5. 成果と課題 .....	118
3. 今後の消費者教育 .....	118
4. 終わりに .....	118
参考文献 .....	119

# 消費者教育におけるキャッシュレス活用の学び

東京学芸大学附属小金井中学校 石津 みどり

## 1. はじめに

中学校家庭科の新学習指導要領には、消費者教育の大切さが反映され、中学校家庭科での三者間契約について学ぶこととなった。中学生はまだ三者間契約を生活上必要とされてはいなかったが、社会情勢の変化に伴い、キャッシュレスの生活を余儀なくされる。賢い消費者としても賢い消費者生活をしていくことを意識しながら学び、生活していくことが望まれる。まずは契約について、そして三者間契約の仕組みを知り、クレジットカードやリスクについて学ぶ。

さらに2019年10月から消費税が10%になることで、店舗や企業の顧客へのサービスが増えているので、リスクを最小限にキャッシュレスを生活に取り入れるチャンスである。安全性を重視した現金のみの使用も否めないが、確かな知識とリスクを知るすべを持ち、今の社会を賢く営んでいくための生きる力を養いたい。

正しい知識は常に変化する。とても速いペースで社会のシステムが変化していくからである。そこで、数か月単位で情報を得ることが大切である。そのことを生徒たちに伝えたい。情報弱者とならないように積極的に情報を得る習慣をつけ、生活者としての力を身につけていくことが大切である。そのために、家庭科で扱う消費者教育の研究としてこの授業を計画する。

## 2. 授業に関して

### 2. 1. 授業の目標

- ・キャッシュレス普及の必要性とその背景を理解する。
- ・クレジットカードやキャッシュレスのリスクを知る。
- ・現在社会のお金に関わるシステムが変化し、自分で情報をキャッチする必要があることに気づく。

### 2. 2. 実践の意図

多くの人は、賢く生活する工夫を試みても、なかなか満足できるような成果は出せない。クレジットカードやキャッシュレスについて、リスクの存在が気になり、慎重になる。メディアの情報から、キャッシュレスに関わる不具合が報道され、消費者は何を信じてキャッシュレスを活用したらよいのか困惑しているのではないだろうか。今回、授業は2019年9月5日に行うため、消費税増税の10月直前である。増税導入時の特例措置も始まるが、その期間は9か月間しかない。それらを知るには、とても良い時期である。学んだことを家族にも伝え、聞いたままにするのではなく直接情報を調べなおし、自分でどんな支払方法を選択するかを決め、生活に活かすように授業のねらいを設定した。

### 2. 3. 授業展開の概要

家庭科として学ばなければならない三者間契約とクレジットカードのしくみを学び、キャッシュレス化のことを学んできた。消費税率の変化に伴い、消費者はいかに支払い金額を少なくするかを考える。

はじめに、生徒たちが知っている情報や考えを共有し、そこにあるリスクについて学ぶ。

次に、消費税増税時の特例9か月間の仕組みを知る。賢い消費者として生活するためには、自ら知識を得ていかなければ、情報弱者になってしまうことを知る。

最後に、10月からの新制度について、対象ごとの消費税率やポイント還元の仕組みと現状などを学ぶ。

## 2. 4. 授業の実際

### 題材設定の理由

消費者教育として三者間契約やクレジットの仕組みを学んできたが、その際キャッシュレス支払いについても最新情報を提供してきた。しかし、現状のような早さでキャッシュレスの流れが押し寄せてくることに驚き、日々実感してきた。2019年10月に消費税が10%となり、少しでも家計が助かるように消費者として工夫することを意識させられる。企業についても中小企業のためにポイント還元を決めている。対象の商店には、キャッシュバックのステッカーが貼られるものの、大手企業もそのまま還元対象外を受け入れることはありえない。ポイント還元のサービスを多発し、顧客獲得に躍起になっている。

このような社会の流れでは、多くの生徒がキャッシュレス支払いを今後、利用することになると考えられる。少しでもリスクの少ない消費者生活を目指すための知識と生きる力を身に付けさせなければならない。そのためには、消費税が10%になる前にキャッシュレス活用法についての授業を行う必要がある。

### ①授業の展開（1時間）

	学習内容	生徒の学習活動	教師の支援他（☆生徒の発言）
導入 5分	・消費所教育である契約やクレジットの授業を覚えているかを聞く。授業では、皆がキャッシュレスより現金が良いと話していたことを伝える。	・クレジットの授業内容を思い出し、クレジットの授業後に、どんなことについて気を付けているかを発表する。	・考えたことを自由に言える雰囲気ですすめる。 ・授業プリントや資料を準備する。 ・授業の流れがわかるような板書をする。
展開 35分	・現在、個々にクレジットやキャッシュレスについて、知っていることや考えていることを話し合う。	・自分の知っていることや考えをワークシートに記入し、グループで発表する。情報をワークシートにまとめ、共有する。	・個人の考えを整理してから班で話し合う。 ・内閣や消費者庁の正式発表とSNSやメディアの情報を分けて考え、整理する。
	キャッシュレス払いについて考えよう		
	・班での話し合いの内容をワークシートに記入し、1グループ8人で考えを共有する。グループの発表時は皆がわかるように説明する。 (5つに分かれる。1・2班, 3・4班, 8・5班, 6・7班, 9・10班で話し合う)	・正式に決まっていること、メディア等で知ったこと、自分はキャッシュレスで支払うかななどを班で共有する。 ・消費者として考え、情報は最新なものを常に調べなければならぬことを確認する。	☆家族にやってもらいたい。 ☆ポイント還元の意味が分からないから使えない。 ☆お財布の現金しか把握できない。 ☆そんなに支払う金額が違うの？ ☆現金だと損しちゃう。 ☆難しい、安全で簡単なのは何？どうすればいいの？
まとめ 10分	・グループの8人で話し合ったことを整理して、発表する。 ・10月からの新制度について、対象ごとの消費税率やポイント還元仕組みと現状を学ぶ。 ・社会の一員として情報を集めるためにニュースはチェックしよう。	・各班の発表を聞いて、自分の考えを整理してワークシートに記入する。 ・グループの8人で話し合ったことを整理して発表し、全体で共有する。 ・時間があれば感想を発表する。	・生活における課題として、キャッシュレスなど、新しいことが急速に進んでいく。 ・情報弱者にならないような心構えと賢い消費者として生活するための「生きる力」を身につける。

生徒用ワークシートには以下のような内容を取り入れ、自分の考えを整理できるようにする。また、生徒が自分の考えを整理し、記述するのに適したスペースを設定することも大事にした。

<消費者教育に関して、今までの授業で学んだことは何だろう>

- ・クレジットの仕組みや自分の生活スタイルを考えて払い方はどうすると答えましたか。
- ・今、キャッシュレスのことで分かっていること、考えていることは何でしょう。

<班の方との考えをメモしよう>

- ・内閣等の正式発表
- ・SNSやメディアの情報
- ・班の人の考え
- ・自分の考え（キャッシュレスをどのように活用するか、現金払いを貫くか。）

## 2. 5. 成果と課題

授業において、生徒は想定以上に消費者教育に無関心であった。キャッシュレスに向けての授業を受け、消費税増税のニュースとポイント還元についてメディアで話題になっているにもかかわらず、知っている情報が乏しかった。グループ活動で話し合う内容は、お互いの知識のなさや無関心さの確認になってしまった。予定より、知識的な面を生徒に伝える場を増やし、リスクへの対応や失敗談を交えて話し合い中のアドバイスとした。最終的には、現在生徒が使えるキャッシュレスの方法を限定的に、具体的な「お得情報」として伝え、生徒はキャッシュレスに興味を示した。興味を持つことにより自分事として考え、キャッシュレスの仕組みや税金との関係にも考えが及ぶようになる。指導する側としても生徒の現状を知り、よりよい生活を目指す意識を呼び覚ますことができるよう努力を重ねていく意識を強めた。本研究での取り組みは、消費者教育の重要性の再確認となった。

## 3. 今後の消費者教育

本研究に関して、東京学芸大学とみずほフィナンシャルグループとの金融教育共同研究を基礎にしてきた。カリキュラム案の作成当時は、最新の情報とデータをもとに検討してきたことであったが、消費者教育のキャッシュレスの動きは、想像ができないほど急速に変化していた。1年もしないうちに新たな生活視点の課題が生じ、今までにはない視点の授業の取り組みが必要になってきた。オリンピックに焦点を当てたキャッシュレスの動きが、消費税増税の動きとキャッシュレスの仕組みに関わる企業との利権競争が合わさり、より複雑な消費者生活が進んできている。高齢化が進んでいるにもかかわらず、高齢者ではついていけないほどのキャッシュレスの動きに、社会はこれからどのように対応していくのだろうか。今後は、高齢者への思いやりとして、支払い現場で困っている高齢者を助けたり、温かい気持ちで静かに待ったりできるような若者の誠意に頼ることも、教育現場で視野に入れていかなければならないのではないだろうか。

そして、消費者教育が高齢化社会や税金等に関連したり、背景として大きな意味をもったりしているのではないかと感じる。さらなる研究が必要だと感じる。一方で、キャッシュレスとマイナンバー普及を関連させる可能性を耳にする。それらのことについても、教員が常に新しい情報を収集し、生活者の視点での家庭科教育が充実し、有意義なものとなるように取り組む必要がある。

## 4. 終わりに

中学生でも、生活に必要なものを購入する機会はある。さらに、数年後には一人で生活することも考えられ

る。今までの授業では、今後、キャッシュレスの支払いが増えてくるといった程度の認識であった。しかし、キャッシュレス化の現状を考えると、消費者としてキャッシュレスについて学ばないわけにはいかない。キャッシュレスとリスク、ポイント還元など、多くの新しい情報を得る必要がある。さらに、クレジットカードからの自動チャージとそれに伴う口座開設、そして、振込手数料が高額化する中で、これをサービスとして月に何回出来るかなども情報として必要なのであろう。今や若者はネットでの取引に抵抗がなく活用できているが、親世代では情報弱者が増えるであろう。高齢者となればさらに増えることは確実である。生徒たちには、家族をサポートできるような知識と力を身につけてほしい。社会の流れが大きく早すぎるので、消費者教育カリキュラムの追加が必要だと思われる。そのためにも、授業実践を含む、消費者教育の研究を続けていく。

また、研究の成果として、中学生でも、生活に必要なものを購入する機会はある。さらに、将来的には自身で生活することになる。今までの授業では、今後、キャッシュレスの支払いが増えてくるといった程度の認識であった。しかし、キャッシュレス化の現状を考えると、消費者としてキャッシュレスについて学ばないわけにはいかない。キャッシュレスとリスク、ポイント還元など、多くの新しい情報を得る必要がある。さらに、クレジットカードからの自動チャージとそれに伴う口座開設、そして、振込手数料が高額化する中で、これをサービスとして月に何回利用出来るかなども情報として必要なのであろう。今や若者はネットでの取引に抵抗がなく活用できているが、親世代では情報弱者が増えるであろう。高齢者となればさらに増えることは確実である。生徒たちには、家族をサポートできるような知識と力を身につけてほしい。社会の流れが大きく早すぎるので、消費者教育カリキュラムの追加が必要だと思われる。そのためにも、授業実践を踏めた研究が必要である。

#### 参考文献

大澤克美. (2017). 「考えよう これからのくらしとお金」【改訂版】東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ 金融教育共同研究プロジェクト  
経済産業省ホームページ キャッシュレス・消費者還元事業  
出典：<https://no-genkin.com/entry/cashless-syuhisyakangen-point/20190806>